

2013年 新年のご挨拶



**新年明けましておめでとうございます。**

平成 25 年 1 月 1 日

**【巳年に因み厳しい環境下の中でも地道に堅実な活動を！】**

**水煙会会長 長崎駿二郎**

水煙会の会員各位に於かれましては、本年も又、新たな気持ちで新年をお迎えになられた事とお慶び申し上げます。

昨年は大震災の復旧・復興から原発、円高、尖閣諸島に中国問題、デフレ等と、まさに六重苦、七重苦の言われた一年間でした。とどのつまりの年末には「馬鹿正直・解散」とやらで、衆議員総選挙にまで行き着いてしまい、確かに政治の断面はオセロゲームの如く大きく場面が変わりましたが、これにより、どのように状況変化するのかは、今の所依然として不透明です。そして多くの識者達は、戦後の日本を成功に結び付けた「政治・経済・教育・産業等のシステム」を、今まさに根本から問い直さなければいけない時期に来ているので、ここ当分の間は不安定な状況が続くだろうと予想しております。

さらに今年の干支は「癸巳（みずのとみ）」ということで「大変厳しい環境に晒されが、それに耐えることによってより強く逞しい成長が望める」と言う年回りだそうです。ですから一般的な人々にとっては、地道に努力をして、多少うまくいなくても挫けずに、蛇のように頑張り通すのが「今年の生き方」なのだそうです。

さて、水煙会は昨年年初のこの御挨拶で申し上げました通り「水煙会をより多くの在校生に知って貰い、参加して貰う」事に取り組むようにいたしました。具体的には水煙会の役員や学校側の御協力を得て、まず3月の「学位授与式」の折に祝辞を述べると共に、水煙会賞を授与しながら、改めて水煙会の存在をアピールしました。そして4月の入学式直後の「建築学コースのオリエンテーション」で、同様に水煙会の存在をお知らせし、その後「新入生歓迎会」を在校生と共に開催いたしました。さらに、6月には工藤和美（昭和60年卒）東洋大学教授に、11月には吉野博（昭和46年卒）東北大名誉教授に、其々ご講演して頂き、在校生にも参加して貰うようなセミナーを2回開催しました。

会報第42号の巻頭言にも書かせて戴きましたが、確かに、この様に地道なPRを重ねて行くと、少しは在校生諸氏に「水煙会の存在」を認知して貰えるようです。とは言え、どうも此方が期待するほど効果があったとは思えず、今後其々のイベントに対する改善・改良を加え、更により多くの在校生が喜んで参画して呉れるようにしなければいけないと反省をしております。

来年3月を持って会長任期が終了致しますので、本年の1年間は最後の実質的な作業期間となります。「起承転結」という諺がありますが、会長任期4年間の各1年を其々当てはめてみますと、最後の「結」に当てはまる時期と言う事になります。この点からも、これまで水煙会の活性化を願って色々やって来た事をもう一度精査し、効果のなかったものは切り捨て、継続して効果が出そうなものは残し、改良を加え、出来なかった課題や解決策などを整理していく、当に地道な作業に邁進し堅実な成果へと結び着けたいと考えております。改めて会員各位のこれまでのご支援・ご協力に深謝申し上げますと共に、引き続きご厚誼戴けますよう宜しくお願い致します。

以上